

令和6年度タウンミーティング 守谷B地区

開催日時 令和6年5月25日(土) 15:00~16:55

開催場所 守谷市役所 大会議室

出席者 市民26名

議事内容および要旨

【開会】

【市長挨拶・説明】

資料「未来へつなぐもりやビジョン」に基づき説明

【主な意見と回答】

(参加者)

過大規模校となっている黒内小学校のことですが、雨の日の体育の授業は、人数が多すぎて体育館を使用できないため、廊下でスクワット等の体操をする、教室で読書等を行うことで体育の授業としています。また、黒内小学校は、今後、希望者は黒内小学校以外の小学校へスクールバスによる送迎が始まり、最低10年は続けると聞いています。児童数は、20年後でも900人規模が続くという市の推計が出ています。私は、この対応、推計を見る限りでは、守谷市では人口を増やしたくない、現状をしのぐ立場をとっていると思わざるをえないです。まず、一つ目の質問です。守谷市は、今後、人口を増やす対策について、守りの体制を維持していくということなのか、教えていただければと思います。そして二つ目に、選ばれる自治体になるために子育て世代を増やすということも大事だと思いますが、現在住んでいる子育て世帯に第2子、第3子を産んでもらうために、今現在、未就学児までの保育料の半額、無料について、他の自治体のように小学生まで伸ばしていただけたらと考えております。今現在、子どもがいますが、上の子が小学校に入学すると、また保育料が半額かかるようになってしまいます。ぜひその点を教えていただければと思います。

(市長)

もちろん、人口を増やしたくないということはありません。黒内小学校の過大規模校の問題というのは、承知しております。当初、松並青葉地区を開発する時期に新設校を建設するかどうかということは、議会も含めて議論をしました。私は、議会側の立場で議論をさせていただきました。当初の計画では、マンション建設の予定がなく、戸建てのみであれば、黒内小学校、守谷小学校で対応可能であるということでした。議会に対する説明の中でも、当時、郷州小学校の子どもたちが減って、学校の施設の活用をどうしようかというような議論もあったため、慎重になったと思います。当

初の計画では、現状に至ることが予測できなかったということは事実だと思います。その中で、過大規模校化している学校をどうするかということ、教育環境も全体的に見直すのかということも含めて、庁内関係課職員、そして有識者、市民も含めて、今年度中に検討するという事で協議会を設置するように、動き出しています。そのような中であるべき姿というものを今後考えてまいります。また、二つ目の大事な提案ですが、今年度の予算では対応は難しいと思います。来年度以降の予算の中に、おっしゃっていただいたように、小学校までの第2子の2分の1、第3子の無償化ということも、小学生まで広げた中で、検討させていただきたいと思います。

(参加者)

松並青葉地区では、子どもがとても増加している状況です。例えば、地区の中心にある星の広場、たくさんの子供が集まっています。遊具も壊れていたりするので、対応いただきたい。そして、星の広場だけでは足りないと感じていて、子どもが集まる場を考えてほしいです。特に、子どもたちが雨の日でも安心して遊べる場所も考えてほしいです。

(市長)

子育て世代の多くが、常総線の北側の地域に移り住んでいただいていることから、昨年度は、保健センター内に未就学児が体を動かすことによって知的な発達を促せる遊育施設を設置させていただきました。子育て世代が住む地区が常総線の北側へ移っていることから、当然そちらに子育て関連の施設が必要だと思います。今の段階では検討させていただいているとしか申し上げられませんが、できるだけ早く、複合的な子育て関連の施設が建設できるよう努めていきたいと思っています。

(参加者)

市長には、教育に力を入れてくださっており感謝しています。今後、守谷市の特色ある教育、学校づくりについて、他市町村から注目され、守谷市はすごいよねと言われるような一歩進んだ教育、学校づくりを進めていただけたらと思いますがいかがでしょうか。

(市長)

私は、教育のソフト部分は教育委員会にお任せしていますが、ハード面はできる限り対応していきたいと考えています。今の義務教育というのは、一律同じような教育内容になっていますが、特色を持たせるという意味では、小学校・中学校において、理系に重点を置いた学校であるとか、体育系に重点を置いた学校というように、これまでにないような学校づくりということも考えられるのではないかと、各学校に特色が

あれば、スクールバスで自分の通いたい学校、自分がやりたいことをやっている学校に入学するようなこともありえるのではないかと、ということも教育委員会と話しています。これまでに教育に関して、守谷市は様々なことにチャレンジしてきましたが、2代続けて文部科学大臣が先進地ということで視察にいらっしゃいました。まずは、先生方の働き方改革です。教育長から、先生方は毎日遅くまで残業をして苦労していると聞いて、夏休みを1週間短くして、週に3日間は5時間授業で対応するということでしたり、また、文系の先生が理科の実験を実施することが負担になるということもあったので、独自に教科担任制も導入しました。こうすることで先生方の負担を減らす、余裕を持って児童生徒と向き合うことができるという教育改革を実現してきました。これらの取組が、先進的であると証明され、自治体間競争を勝ち抜いていくという大きな力になっていると、私は思っております。守谷市には、非常に優秀な先生がそろっています。守谷市の学校へ赴任するとハード面も充足しているし、働き方改革もされており、守谷市に赴任したいという先生が非常に多い状況です。教育委員会には、今後も教育改革も含めて新たなことにチャレンジすることができるように、私は後方からバックアップすることを申し上げていきたいと思っております。

(参加者)

つくばエクスプレス沿いの都市軸道路の工事箇所付近で、子どもの見守り活動をしていますが、工事箇所が複雑な交差点になっているため、非常に危険です。この交差点の50メートル範囲ぐらいに保育園、クリニック、マンション、薬局などもあり、出入り口付近が渋滞してしまい、これも危険です。目立つ看板等を設置することで危険を回避できるのではないのでしょうか。危険な場所をはっきりと表示することで事故が減ると思います。後手後手に回らないように、対応いただきたいと思っております。

(市長)

県の管理であるため、現状を確認した上で要請していきたいと思っております。市でできることは早急に対応策を講じていきたいと思っております。

(参加者)

環境面、安全面で確認したいことがあります。一つは野鳥の道にイノシシが出ると聞いています。イノシシと遭遇した場合、どうしたら良いのでしょうか。もう一つは、新守谷駅周辺の土地区画整理事業の進捗状況がいかがでしょうか。

(生活経済部長)

ご指摘のとおり野鳥の道において、イノシシの生存が確認されております。イノシシの駆除について、野鳥の道を管理しております守谷市観光協会と打ち合わせをさせ

ていただいております。まだ結論が出ておりませんが、駆除できるよう協議を続けていきたいと思っております。

(教育部長)

小・中学校において、イノシシが、登下校時や休日に出没するようなことがあった場合は、決して近付かないようにと注意喚起を昨年から行っております。直近では、高野小学校において、出没したという情報が入りましたので、生活経済部と教育委員会で連携をとりながら対応していきます。

(都市整備部長)

新守谷駅周辺の土地区画整理事業は、組合施行と言いまして、地権者の皆さんが集まって、組合として区画整理事業を行うということで進めています。ただ、今の段階では、組合員の地権者の代表者である準備会というものが立ち上がった段階であります。準備会において、事業の精査をしているような状況でありますので、事業の精査が整い、組合というものが設立されて、初めて事業が進んでいくという形になりますので、今はまだ前段階で準備しているというのが現状であります。

(参加者)

固定費9割、経常収支比率は9割ぐらい、もうかなり硬直化していますというお話を聞いて、その上で民生費、いわゆる高齢者の方々への歳出が非常に大きくなっていくという話があり、これにより固定費も上がっていくのだろうと思います。既存ストック、例えば道路ですとか、橋、こういったもののメンテナンス、それから長寿命化に、相当なお金がかかるのであろうと思います。今後、守谷市の財政は大丈夫なんでしょうか。

(市長公室長)

扶助費について、これから高齢化が進むと大きくなります。そのため、健康寿命をどう延伸していくかという部分に力を入れていくこととなります。しかしながら、現状の予算編成の中でどのように抑制するかということは、財政担当もシビアに細かいところを削って、あるいは事業計画も10年長期の事業計画を立てて、ここはもう先送りしないといけないというように細かい作業をしながら、予算を組んでいるというのが現状です。ふるさと納税の寄付金は増額傾向にありますが、これは投資的な、政策的な経費に回そうという方針でありますので、経常経費には充てずに取り組んでいる状況です。

(参加者)

健康寿命の延伸は非常に重要です。もりんふおをスーパーアプリ化するというのであれば、歩くと健康になるので、ぜひ歩数カウント、スマホと連携して、例えば7,000

歩以上歩いた 80 歳の方を表彰するとか、歩く習慣を付けるような工夫をしてほしいと思います。

(参加者)

資料の数字を見ての質問になってしまいますが、近隣のつくば市やつくばみらい市の教育費の構成比に対して、守谷市の構成比は低くなっているように思います。また、スクールバスの制度が始まると思いますが、スクールバスの制度について、対象地区の住民と、市長が自ら意見交換されるような機会を設ける予定はないですか。

(教育部長)

ここ数年間は、近隣市と比較しておりまして、守谷市は、常に 10%以上を教育費として構成させていただいて、他の自治体では 10%前後となっていると把握しています。ただ、単純に公表されている構成比を見ますと学校の新設などがあると構成比が一時的に高くなることがあります。そういったものを除いて比較すると守谷市は高い数値になっていると思います。

(市長)

対話の機会は設けることは可能だと思います。ただ、スクールバス制度のことだけではなく、教育全体のことについて対話すべきだと思います。

(参加者)

市議会で議員が学校新設について質問された際、市長が、教育環境が良いので多くの方が引っ越してきてしまった結果、小学校が過大規模校になったような発言があったかと思います。これは松並青葉などの新住民を軽視しているような発言のように感じるのですが、この発言の真意についてご説明いただけませんか。

(市長)

答弁の表現が失礼にあたり申し訳ございません。私が申し上げたかったのは、教育委員会とともに教育改革に取り組んできた成果を評価いただいているからこそ、多くの方に守谷市を選んでいただけたということです。

(参加者)

市長は、議員のころの決定について、過去に新設校等の提案も検討したと言及されていましたが、実際に小学校が過大規模校になっており、スクールバスを運行する、黒内小学校が困っている、教室が足りない、そのようなハード面が追いついていないというのが現状だと思うのですが、その事態を引き起こしたことに對して、市長としての責任はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

過大規模校になっているという現実について、私の責任はあるんだろうとっておりますし、議員時代に、新設校を建設するべきか、建設しないのかという議論があり、その中で建設しないということを当時の議会が容認したわけですから、議会としての責任、それに賛同した一人の議員としての責任というのはあるんだろうと思います。私が、市長に就任してから、教育改革を進めながら、小学校の増築をさせていただきました。その際も、これで足りるという話をして、増築を進めてきたわけですが、これはこれで公立小学校は10年ぐらい大丈夫だろうという話だったんですが、それがまた違った状況になりました。その要因の一つとして、特別支援学級の教室数が多くなったということがあります。私が予測できなかったという責任はあるんだろうと思っています。

(参加者)

先日、学校の見学会がありまして、黒内小学校に通っている長女を御所ヶ丘小学校に連れて行きました。小学生は自分がいる環境しか知らないもので、外の環境を見てみたらどうかと連れていったところ、ずるいと言っていました。教室に児童が半分しかいない。広々している廊下、トイレも混まない。

黒内小学校の時差登校は、コロナ禍が明けてからもまだ解消していませんで、その時差登校のおかげで、黒内小学校の子どもたちは昼休みが短くなっています。毎日校庭に昼休みに出ることができません。人数が多くて全員全校生徒が校庭に出しまうと非常に危険だという状況だからです。そのため、1日おきに昼休みは15分間外で遊び、校庭も3分割されていて、ボールで遊ぶエリア、かけっこするエリア、ただでさえ狭い校庭が3分割されている状況で、長女が他の小学校を見てずるい、広くていいなど正直な感想だと思えます。ぜひ学校施設、先ほどから話が出ていますが、新設校について、近隣の自治体、流山市、柏市、つくばみらい市、全て学校が新設されているはずですが、守谷市だけが新設されていない。これは非常に残念です。このままでは、子育て世帯が守谷市から転出していくのではないかと、子どもたちがすごく苦境にあえいでいます。

(市長)

教育委員会と調整をしながら、教育環境全般も含めて期待に沿えるような方向のことも含めて考えてまいりたいと思います。

(参加者)

松並青葉地区の星の広場と天の川公園、二つ公園があり、天の川の方がもともと親水公園で水が流れていたのですが、ポンプが壊れていて、もう流れていないという状

況です。その水自体が井戸水であるため、臭いとか虫がわくということも想定されることから、ポンプを修理するにも住民の合意が必要だと、当時の担当者から聞いています。調整池もあるので難しいかもしれませんが、子どもたちが遊べるように舗装してしまうようなことを検討いただければ幸いです。もりんふお、もりんについて、切れ目なく活用できるように、進めてほしいです。私自身、図書館でよく本を借りますが、図書館に行くには、どうしても距離的に車で行くことになります。可能であれば、駅などにおいて、ピックアップセンターのようなものを設置していただけないかと要望させていただきます。

(市長)

松並青葉地区には公園が少ないということは認識しております。そこで、松並青葉地区の隣接地で市民からご寄附をいただいた土地があり、ここを公園的な子どもたちの遊び場に整備ができないか検討しております。また、もりんの活用については、もりんふおをスーパーアプリ化をして、積極的に進めてまいりたいと思っております。図書館については、私も中央図書館の担当者も常総線の北側に出先があったほうが良いということで、一昨年から探しています。駅周辺、または駅で、ピックアップ、返却できるという仕組みを考えていきます。

(参加者)

私の体験で申し訳ないですが、新生児の子どもが夜中に発熱して、すぐに病院に行こうと探したんですが、守谷市内でどこも診てくれませんで、取手市の JA 取手総合医療センターに連絡しました。守谷市のホームページには午後 11 時までと掲載してありましたので、午後 10 時 5 分ぐらいに電話して行きますと言ったんですが、受け付けてもらえませんでした。理由は午後 10 時で受付が終了しているからということでした。仕方ないので、つくば市のメディカルセンターまで行ったんですが、着いたのが午前 0 時、帰ってきたのが朝の午前 5 時でした。問題としては、守谷市内で夜中に診てくれる医者がないということで、できれば総合守谷第一病院で診てくれる体制が大事なんだろうと思いました。病院の方に、相談しましたが、医師の働き方改革が問題になり、それはできないという回答で終わってしまいました。救命救急行政、医療行政というのは基本的に市ではなく、県の行政であるので、市だけでは動くことが難しいようですが、そういった地域の取組で、取手市の医師会に掛け合い、輪番制などで、緊急性の高い人を診ることができる体制を構築するべきと、近隣の救命救急センターと県の救命救急センター長は言っていました。今日の議論の中で、健康寿命を延ばしていくということもありましたが、結局はインフラだと思います。病院が充実していないと、やはり高齢者が増えたときに、それを支えるセーフティーネットが築か

れていないと、絵に描いた餅になってしまうと思います。守谷市の医療行政に取り組んで、そういったセーフティーネットを強化するという取組があってほしいと思います。それを支えるために、どうしても若い人、税を納めてくれる人が必要になってくると思います。そのためにも、本日何回も出ていますが、学校の新設ということも絡んできますが、若い人が魅力に感じているハード面とソフト面、そして高齢者が安心して過ごせる医療行政、この整備を進めることが上手く回す一つのキーになると思っておりますが、市長のお考えをお聞かせください。

(市長)

ある病院から、働き方改革により今年の4月1日から夜間の診療はできませんという話がありました。今までは医者の方の好意で勤務時間以上に勤務していただいていたようです。この問題を何とかしないと、本当に地域の子どものための医療というのは、とんでもないことになるというような話をさせていただいて、様々な調整をすることで今までよりも1時間短いけれども、夜間診療もできるようになりました。この状況に危機感を持っておりまして、小児科を確保してもらおうということも含めて、県並びに国の方にも働きかけていかななくてはいけないんだろうと思っております。

(参加者)

私が出た情報が正しいか分かりませんが、守谷市は市域が狭くて、救命救急のいわゆる地域分けみたいなものですと、今、守谷市はつくば市に入っていると思うんですが、つくば市は人口がすごく増えているので、もしかしたら、今度は土浦市になるのではないかとということを知ったんですが、そうなりますか。

(健幸福祉部長)

守谷市は、医療圏域というものがどちらになるかという質問だと認識しましたが、こちらは常総地域に入ってきます。救命救急も、そちらの方に入ってくる形になると思います。基本的には身近な医療の提供範囲での医療圏に対応するというような形で考えられると思います。

※当日、龍ヶ崎地域とお答えしましたが、正しくは常総地域であるため修正させていただきます。

(参加者)

つくば市が非常に混んでいる状況で対応が遅いため土浦市に行くべきとアドバイスをいただきました。守谷市は、子どもに限らず、高齢者が救急車を呼ぶ状況になったとしても、土浦協同病院まで行く状況になりつつあるということだと思います。JAとりに総合医療センターが中核になってほしいところが、高度救命救急センターとしては機能していないということなので、JAとりに総合医療センターに行けない状況です。これは高齢化率が上がれば上がるほど救命率が問題になってきますので、この問題はおそらく子どもだけではなく、高齢者にとっても極めて重要な問題であります。

最終的にはそれを支えるのは若い世代だと思います。そのバランスというものを上手く回していかないと、守谷市みたいな小さい市は苦境に陥るといようなことが最近見えてきたということです。市政では非常に難しい問題だと思いますが、問題提起をして対策をとっていただきたいと思います。

(参加者)

先ほど市長から、松並青葉地区の隣接にある土地のお話がありましたが、住民との話し合いもして下さるといことだったので、子育て世代の意見に加えて、ぜひ子どもたちの意見も聞いていただけたらうれしいなと思いました。また、教育長と子育て世代の我々の話し合いの場を設定することはできますか。さらに、守谷駅周辺にゆうちょ銀行のATMがあったら便利だと思いますので、設置を考えていただけたら思っております。

(市長)

私も以前から、守谷駅周辺に郵便局ができないかということをお政省に話しています。ただ、今、郵政省もどちらかといと縮小傾向にあって、なかなか新設といことは難しいようです。せめて郵便ポストの設置とい話もしています。引き続き働き掛けさせていただきます。

(教育部長)

教育長との対話については、調整させていただきます。

(参加者)

認知症サポーター養成講座を実施していると思いますが、ぜひそのような取組をたくさん実施していただきたいと思ひます。また、先日オレンジカフェとい取組に参加したところ、守谷高校の生徒が3名参加されていました。ぜひ、守谷市内の小・中学校に向けても、認知症にかかわるような教育を広めてほしいと思ひます。

(健幸福祉部長)

認知症サポーター養成講座については、健幸長寿課で依頼を受けて実施させていただいております。過去に、小・中学校から依頼をいただき実施している実績がありますので、いろいろな形で、いろいろな場所でも実施できるよう進めていきたいと思ひます。オレンジカフェも守谷高校の生徒がボランティアとして参加してくれたといことで、若い子たち、若い世代の方にも認知症を理解していただき、そういった活動に参加してもらえりような取組も進めていきたいと思ひますので、ご意見ありがとうございます。

(参加者)

ブランチ守谷ともりっ子のことについてお伺いします。ブランチ守谷において、空き店舗が目立ってきて、平日の夕方に行くとお客さんがかなり少ない状態です。空き店舗を生かし、旭市の多世代交流施設「おひさまテラス」のように子どもたちだけではなく高齢者も集まって、昔遊びなどで交流できる場をつくれませんか。また、保健センターは、未就学児しか利用できないのか把握していないのですが、未就学児しか利用できない場合、子どもが小学生になると、親が一人で未就学児と小学生を見なくてはいけないときに、もりっ子を利用することができなくなります。例えば、小学生の部屋を隣につくってもらうことができれば、より使いやすくなるのではないのでしょうか。

(こども未来部長)

もりっ子は、未就学児の利用となっています。兄弟・姉妹で来場いただいた際に、ご指摘のような弊害、使えないというお話は聞いております。別の部屋ということになりますと、保健センターの利用がありますので、難しい状況ではありますが、対策を検討していきたいと思っております。

(市長公室長)

ブランチ守谷は、大和リースが運営をしている商業施設部分となります。テナントの入れ替えが出てきているとは聞いています。市からも魅力あるテナントを入れてくださいと直接お願いしております。芝生広場があるブランチパークは、市と大和リースで協議会を構成し、加えて地域の方々、団体も入っていただき、賑わいを創出するために、随時イベント等を検討・実施しています。

【市長挨拶】

皆様、本日は、大変ありがとうございました。3年ぶりでタウンミーティングを開催させていただいて、皆様の様々なご意見を聞けたということは、私にとっても有意義な時間でしたし、また、これからの課題も見つかったのかなと思っております。冒頭の説明で申し上げましたように、あれもこれもできる時代ではなくなってまいりましたので、あれかこれかという選択をしていかななくてはいけない、担当職員には優先順位をつけて経常経費を削っていかなければ、これから自治体の財政が立ち行かなくなるというお話をさせていただいております。このような現状もあり、全て実現できるわけではございませんが、優先順位をできるだけしっかりと皆様にお伝えをしながら、その中で皆様のご意向に沿うべく、今後とも頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。今日は本当にありがとうございました。